【豊かな海づくり推進協会コーナー③】

豊かな海づくりに関する現地研修会報告

令和７年度豊かな海づくりに関する現地研修会「海業の推進について」

静岡県漁業協同組合青壮年部連合会
事務局　小林　智憲

開 催 日 時：令和８年１月 26 日（月）15:30 ～ 16:30
開 催 場 所：静岡中央ビル５階大会議室
研修対象者：静岡県漁業協同組合青壮年部連合会　漁協青壮年部員、事務局ほか
出 席 者 数：25 名
講　演　名：「海業の推進について」
　　魚津漁業協同組合　代表理事組合長　濱住　博之　氏
　　東海大学海洋学部水産学科　准教授　李　銀姫　氏

１．はじめに

静岡県漁業協同組合青壮年部連合会（以下、県漁青連）は、県内の漁業を担う若手・中堅漁業者で組織され、会員相互の連携を深めるとともに、漁業技術の向上や資源管理、さらには次世代への食育活動などを通じて、活力ある漁村社会をの形成を目指して活動している。

現在、漁業者を取り巻く環境は、海水温上昇による磯焼けや記録的な不漁、資材価格の高騰など、単に魚を獲るだけでは立ち行かない状況である。政府は「海業（うみぎょう）」を推進し、地域の水産資源や漁村地域を多角的に利活用することで、水産物の消費増進や交流促進など、地域の水産業を活性化する施策が行われている。

本研修会は、こうした情勢下で漁業者が海業にどう向き合い、いかに主体となって携わるべきかを学ぶべく、海業の理論的専門家と、現場で多角的な漁協経営を実践した講師を招聘し、開催した。

２．研修会の概要

本研修会は、令和８年１月 26 日に静岡中央ビル５階大会議室で開催された。主な参加者は県漁青連会員漁協の漁業者、漁協職員、行政職員であり、総勢 25 名が聴講した。東海大学海洋学部水産学科李准教授および魚津漁業協同組合濱住代表理事組合長をお招きし、「海業の推進について」と題し、李准教授からは海業を成功させるための思想的根拠と、若手漁業者が持つべきマインドセットについて、濱住組合長からは漁協合併に伴う産地市場の統合と新市場建設を皮切りに単なる手数料ビジネスからの脱却を目指した多角的な取り組みについて、ご講演いただいた。講演後には意見交換や質疑応答が行われた。

３．講演の概要

李准教授からは、海業を単なる観光ビジネスではなく、漁村の存続のための営みであると語られた。

・日本漁業を「衰退」と断じる否定的な言葉の氾濫が、机上の論理を正当化させてしまう危うさを指摘。漁業者は自らの仕事の価値に誇りを持ち、主体性を手放してはならない。
・経済学者シューマッハーが提唱した「人間中心の経済学」を引用し、効率性だけを追い求める巨大資本の論理ではなく、家族経営や個人経営に寄り添う日本の沿岸漁業こそが、道徳と人間性を保てる理想的なモデルである「スモール・イズ・ビューティフル」だと説いた。小さな経

営の集合体が柔軟な土台となる。

・「共有地の悲劇」から「共有地の喜劇」へ。一般に「共有資源は放置すれば枯渇する」と言われるが、漁協という強力なコミュニティによる資源管理の歴史がある。共同体が資源を守り、活用していく姿は、「共有地の喜劇」とも呼べる成功例であり海業はこの強固なコミュニティを基盤にする。

・SDGs が掲げる「海の豊かさを守ろう（水面下の資源保護）」を達成するためには、水面下の魚だけでなく、「水面上の生命（漁業者とその家族、地域）」が不可欠である。

濱住組合長からは、具体的な実践例に基づき、組織を動かす戦略が語られた。

・「待ち」から「攻め」の販売事業へ変革する。魚価低迷が続く中、販売事業を強化し、単なる手数料ビジネスから脱却しようとしたことが出発点となった。

・「海の駅」を拠点としたコミュニティ形成：直売所「海の駅 蜃気楼」や移動販売車が、単なる魚介類の販売だけでなく、地域の拠点としての機能を発揮している。地域住民が利用してくれることで、漁業への理解を形成している。

・一漁協の枠を超えた海藻養殖の共同事業化や、大学・高校と連携したブランディングを推進。若手漁業者が外部の専門家と対等に渡り合い、新しい価値を創造できる土台を作り上げた。

両氏の講演に共通する理念は、良いあり方を生み出すために議論することの大切さである。海業とは、外部資本に依存した開発ではなく、漁業者が自ら見出し、地域・組織の力を借りて形にしていくことが必要である。

４．謝辞

ご多忙の中、有意義なご講演を賜りました李准教授、ならびに濱住組合長には、心より感謝申し上げます。